

|           |                                   |
|-----------|-----------------------------------|
| 氏名        | 小 林 雅 巳                           |
| 学 位 の 種 類 | 医 学 博 士                           |
| 学位授与番号    | 乙 第617号                           |
| 学位授与の日付   | 昭和49年6月30日                        |
| 学位授与の要件   | 博士の学位論文提出者<br>(学位規則第5条第2項該当)      |
| 学位論文題目    | 人癌由来初代培養細胞に対する人リンパ節細胞の抗増殖性に関する研究  |
| 論文審査委員    | 教授 佐藤 二郎    教授 小川 勝 士    教授 妹尾左知丸 |

## 学 位 論 文 内 容 の 要 旨

主として動物癌では *in vivo* の腫瘍移植試験で、腫瘍には担癌宿主にない腫瘍特異移植抗原 (TSTA) の存在することが明らかとされてきている。他方人癌においては近時漸く、TSTA の存在が宿主リンパ球の *in vitro* における抗腫瘍性より推定されるに至っている。さらに *concomitant immunity* の成立あることもみられるに至っている。

そこで、乳癌患者や胃癌患者を中心に、剔出腫瘍を出発材料とし、Maddenburk 法にて遊離腫瘍細胞を採り、24時間初代培養後、これに自家あるいは他家のリンパ節リンパ球を加えさらに1～3日間培養し、腫瘍細胞数を算定する。いわゆる *lymphocytotoxicity test* によりリンパ球の抗腫瘍性を測定した。人癌の初代培養は困難であって、78例中29例に満足すべき成績をえた。

人癌由来初代培養細胞に対する自家リンパ節細胞の投与では、 $21/30$  に抗腫瘍増殖性があり、リンパ節を部位別に分けて検討すると、腫瘍局所リンパ節では  $7/13$  (54%)、遠隔リンパ節では  $14/17$  (82.4%) に抗増殖性がえられ、進行癌では近位よりも遠隔リンパ節に *concomitant immunity* の存在の高いことを明らかとし、胃癌や乳癌にも TSTA の存在することを推定した。

## 論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

本論文は、人癌由来初代培養細胞と人リンパ節細胞の混合培養によって担癌人リン

パ節細胞の抗増殖性を発見したものである。同一研究室の動物癌に対する同系の実験と併せて研究されているもので人癌治療への一つの夢を現実にする一歩となるものである。これを契機として対照人癌細胞の同定を確実にする方法がとられれば更に価値ある論文となろう。よって、本研究者は、医学博士の学位を得る資格があると認める。